農業・農村振興を通じた 中央市の地域振興・活性化

一般財団法人中央市農業振興公社の4つの活動領域と

道の駅とよとみ(農産物直売所)が果たす役割及び 公社が目指したい中央市農業・農村の姿

(一財) 中央市農業振興公社の活動領域



環境に優しく高収益な農業振興

- GAP制度活用による市内産地創りの支援
- HACCP制度活用による6次産業化支援
- 県と連携した施設花卉や野菜生産拡大支援
- 温暖化に対応した水稲作の振興ブランド化
- 農地の流動化を通じた規模拡大等への支援
- ・ 新作物振興のための展示圃設置や試験販売

(一財) 中央市農業振興公社の活動領域



- 新規就農・参入者の確保と育成
- 県と連携した就農相談会の開催や参画
- 農地中間管理機能を活用した農地斡旋
- 就農当初必要な農業機械等の減免貸付
- 新規就農や新規参入支援措置等の啓発
- 担い手農業者の規模拡大への支援と助言

(一財)中央市農業振興公社の活動領域



C

やすらぎと 活力に満ちた 農村・地域づくり

- 農福連携による農業生産現場の指導と販売促進支援
- 農業者との連携による農業生産や農産物への理解促進
- 積極的な地域環境保全活動を通じた地域環境保全
- 市民や都市住民対象の市民農園開設支援と展示圃設置
- 地域に育まれた伝統行事、伝統文化の伝承と情報発信
- 中央市内の自然景観や農業農村資源の伝承と情報発信

(一財) 中央市農業振興公社の活動領域



D

魅力ある 中山間地域農業と 地域活性化

- 生産条件の不利を逆手に取った農業生産活動の支援
- 高齢化を克服する軽量野菜等の栽培普及と販路確保
- 少量多品目生産を支援する域内流通販売体制の確立
- GAP制度活用による地域に即した産地創り(再掲)
- HACCP制度活用による6次産業化支援(再掲)
- 都市住民等を対象とした滞在型市民農園開設支援
- 地域に育まれた伝統行事や文化の伝承と情報発信

道の駅とよとみ **1つ目の機能**

(一財) 中央市農業振興公社の4つの活動領域の結節点

A 環境に優しく高収益な農業振興

活動領域の結節点

Cやすらぎと活力に満ちた農村・地域づくり

道の駅とよとみ

B 魅力ある農業経営の展開

D 魅力ある中山間地域農業と地域活性化

都市との情報・交流の結節点 中央市農業・農村づくり構想

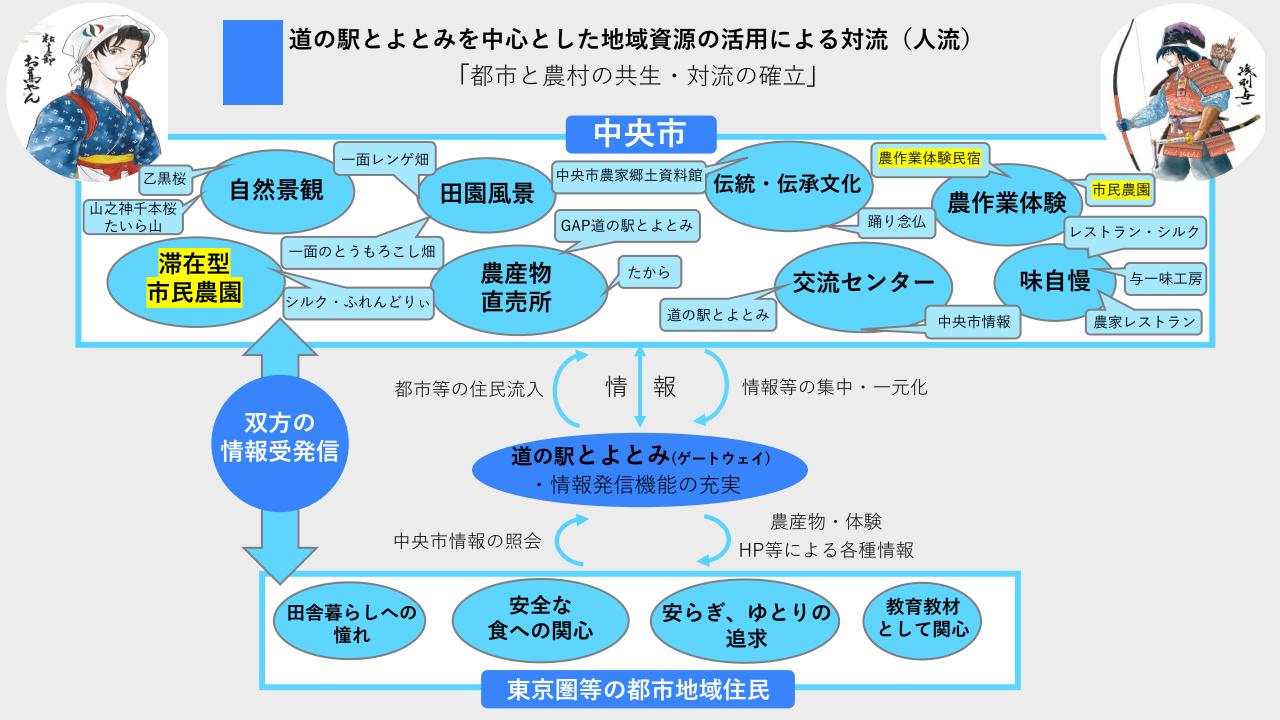


中央市情報の発信・中央市と都市との交流の結節点

【道の駅とよとみ】

都市へ

- ◎中央市地場農畜産物の販売による中央市への理解促進
- ◎中央市情報や就農情報の提供による移住・定住の促進
- ◎中央市伝統行事等の情報発信による流入促進
- ◎自然景観や農村資源情報発信による流入促進



道の駅とよとみは

1つ目の機能を活用した中央市「2つの好循環」の構築主体

A 環境に優しく高収益な農業振興

活動領域の結節点

Cやすらぎと活力に満ちた農村・地域づくり

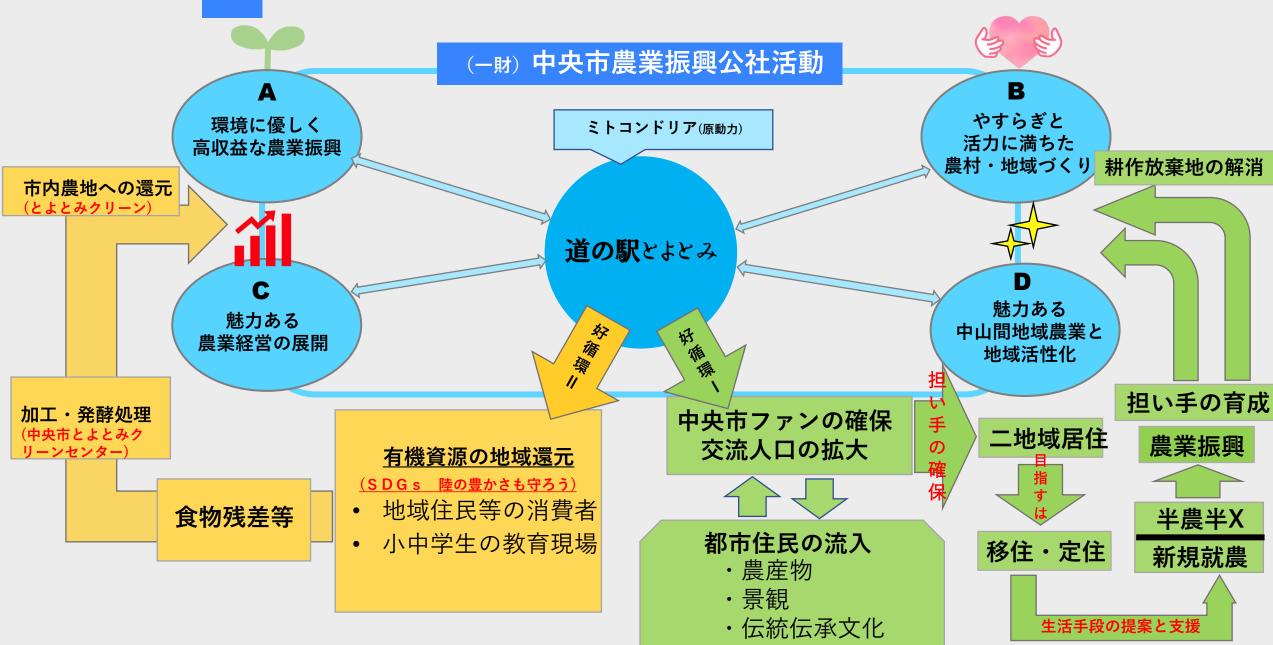
道の駅とよとみ

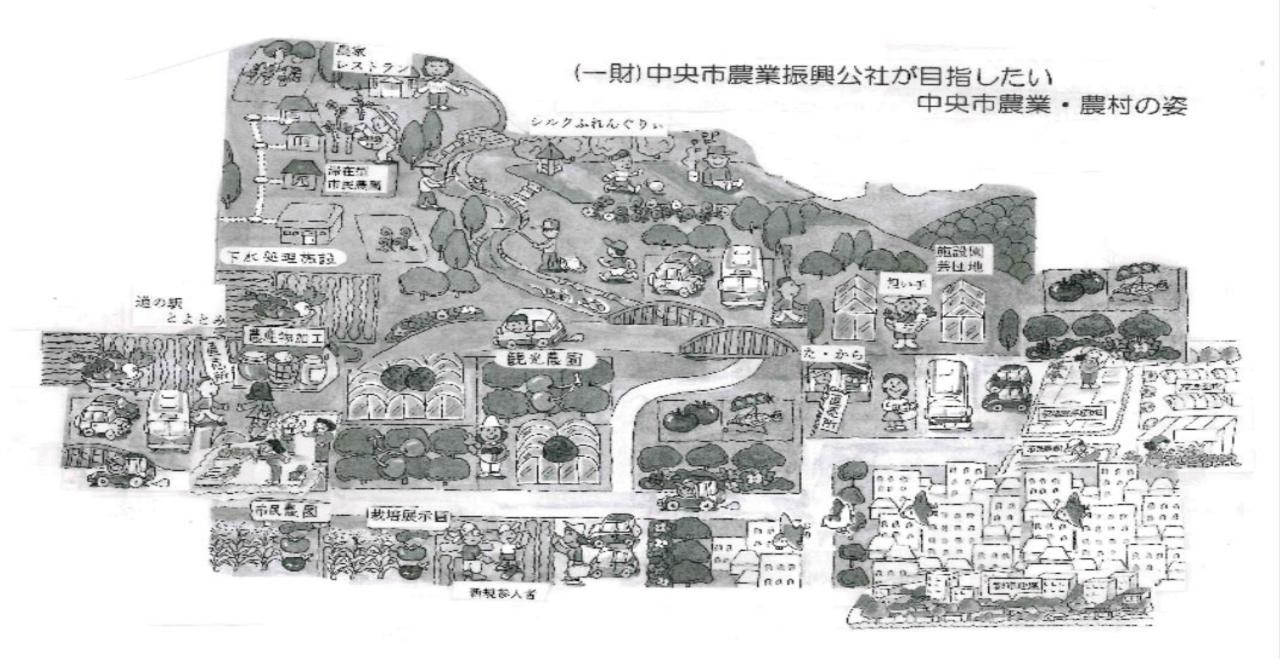
B 魅力ある農業経営の展開

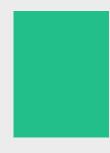
D 魅力ある中山間地域農業と地域活性化

「道の駅とよとみ」の結節点機能を活かし、原動力とした2つの好循環づくり

「道の駅とよとみ」は農業・農村振興のミトコンドリア(原動力)







農業・農村振興を通じた 中央市の地域振興・活性化

「都市との情報・交流の結節点-

中央市農業・農村づくり構想」

一般財団法人 中央市農業振興公社

「都市との情報・交流の結節点 中央市農業・農村づくり構想」 の概要と具現化に向けた令和4年度以降の 「一般財団法人 中央市農業振興公社」の取り組み

構想推進に当たっての取り組み方針

- (一財)中央市農業振興公社(以下「中央市農業振興公社」という。)は、事業計画に掲げた基本的事業一つ一つを確実に実施することにより、組織一丸となった構想具現化に向けての取り組みを展開していく。
- ○特に、中央市の農業・農村振興の柱組織として、
 - A 環境に優しく高収益な農業振興
 - B 魅力ある農業経営の展開
 - C やすらぎと活力に満ちた農村・地域づくり
 - D 魅力ある中山間地域農業と地域活性化

の四つを活動領域としつつ、

事業実施に当たっては、市や県とも連携しつつ経費の縮減に取り組みながら実施していく。

令和4年度の取り組み方針

○市や県とも連携しつつ経費の縮減に取り組みながら、前述の四つの活動領域を 確実に実施することにより、中央市農業・農村の活性化を促進する。



- ①売り上げ目標を平成30年度(4億1千7百万円)と同水準。
- ②中間管理事業による流動化目標を令和3年度(件数51件、面積9.8ha)の実績超え。
- ③講習会や展示圃を通じた新規参入者の確保育成や担い手農業者の経営・技術支援。 以上3点を短期目標として、計画的な取り組みを行う。



Ⅱ 令和4年度以降の5年間の 中期的視点の取り組み事項

Ⅱ 令和4年度以降の5年間の中期的視点の取り組み事項



○中央市農業振興公社は、農業者、関係団体及び行政との連携による運営により、市内農地の利用 集積(農地中間管理事業)を通じて、

- ①新しい地域農業の確立とその展開に不可欠な自立した新規就農者の確保・育成。
- ②中核的担い手となる農業経営体の育成と規模拡大。
- ③農業技術指導を通じた農業者の経営確立とともに、「やまなしGAP」等を通じた自然への負荷の少ない農法普及による産地づくり。
- ④立地や気候条件等を巧みに活用しながらの農業生産力の維持・増大と担い手農業者の所得拡大。
- ⑤新規作物の普及と定着による農業者収入の確保。 等

以上5点を視野に入れながら、中央市農業の発展と安全安心で安定した食料供給、さらに農業・農村の多面的機能の発揮を促すことにより、実り豊かな生活文化都市づくりに寄与することを目的としながら、中央市全域を視野に入れつつ、地域実情に即した取り組み展開していく。

構想具現化に向けては地域毎の異なる課題の解決策が不可欠

<u>豊富地区と田富・玉穂</u> 地区では課題が異なる。

○この様な中、中央市農業振興公社では、中央市内でも<u>「豊富地区」は中山間地域</u>に位置し、生産条件が厳しく担い手の減少・高齢化とそれに伴う農地の遊休化等を課題として、<u>「田富・玉穂地区」については、</u>施設園芸の維持・振興のために必要な担い手としての農家子弟や新規参入者の農業参入を通じた円滑な事業継承や平坦地での農地の遊休化等を課題として掲げ、<u>各地域事情に即した課題解決に向けた取り組み展開</u>。

各地域の課題の解決に向けた取り組み

○この様な中、中央市農業振興公社では、中央市内でも「豊富地区」は中山間地域に位置し、生産条件が厳しく担い手の減少・高齢化とそれに伴う農地の遊休化等を課題として、「田富・玉穂地区」については、施設園芸の維持・振興のために必要な担い手としての農家子弟や新規参入者の農業参入を通じた円滑な事業継承や平坦地での農地の遊休化等を課題として掲げ、各地域事情に即した取り組み展開。

地域課題解決への取り組み 手法

- ①少量多品目生産を可能とする域内流通システムの確立。
- ②安全安心の農産物生産システム(やまなしGAPや土壌分析の励行による減化学 農薬)の確立と農産物のブランド化。
- ③農業経営安定に向けた6次産業化や加工原料農産物の生産振興支援。
- ④農業・農村資源の都市住民に対する情報発信や農業・農村体験を通じた交流・触れ合い機会の提供。等を地域の実情に即して、市や県と連携し実施することにより、

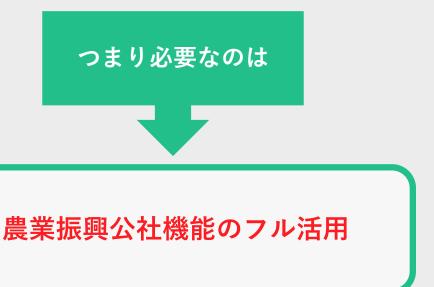
効果

新規就農者及び担い手農業者の収入確保と6次産業化や都市農村交流等による 地域全体への経済効果の波及、さらに様々な農業・農村地域や産業情報のタイム リーな提供と発信による人流の拡大。

- ①少量多品目生産を可能とする域内流通システムの確立。
- ②安全安心の農産物生産システム(やまなしGAPや土壌分析の励行による減化学農薬)の確立と農産物のブランド化。
- ③農業経営安定に向けた6次産業化や加工原料農産物の生産振興支援。
- ④農業・農村資源の都市住民に対する情報発信や農業・農村体験を通じた交流・触れ合い 機会の提供。

地域毎の課題解決に向けた前述の取り組み手法を効率的・効果的に展開していくためには、

○中央市農業振興公社の「農地中間管理機能→農地流動化」、「担い手確保・育成機能」及び 「農業技術指導・普及機能」以上3つの公益機能と「道の駅とよとみ」が持っている「農畜産物 販売機能」や「情報発信・交流促進機能」等の収益機能を一気通貫での実施が効率的・効果的。



構想の具現化に向けて農業振興公社機能をフル活用

前述の取り組み手法を効率的・効果的に展開していくためには、

①中央市農業振興公社の「農地中間管理機能→農地流動化」、「担い手確保・育成機能」及び 「農業技術指導・普及機能」以上3つの公益機能と「道の駅とよとみ」が持っている「農畜産物 販売機能」や「情報発信・交流促進機能」等の収益機能を一気通貫での実施。

